

これぞ、ハイブリッド保育！ プレゼンタイムで食育

主体的・日常的に世話を続けている「あたしんちの畑」で収穫した野菜は、家庭に持ち帰ります。そして、保護者と一緒に調理を楽しんでいる姿を、友だちや先生にプレゼンテーションする機会が増えています。その姿を見て、家庭で調理を手伝う園児も増えました。

これは、「プレゼンタイム」という、8年前からはじめた活動です。5領域の「表現」に位置付け、めざす子ども像の「言葉による伝え合い」で大きな成長が見られます。この活動は、手伝いをした時の姿、自慢したいおもちゃ、家族で旅行した様子、自転車に乗れるようになった姿など、様々な写真をプロジェクターで大きく投影して発表する活動で、子どもたちに大人気の時間となっています。

そして、「あたしんちの畑」がきっかけ

となり、家庭での食にかかわる活動がプレゼンタイムの内容として加わるようになりました。食育と言えば、農作業体験、調理実習などのアナログ活動が主ではありますが、デジタル活動をバランスよく融合することで、さらに知識を深め、関心を高めることができます。

プレゼンタイム

プレゼンタイムは、年中児と年長児の活動に位置付けています。自己紹介から始まり、写真の説明をします。そして、質問や感想を発表し合います。時間は3分程度ですが、子どもたちが真剣にプレゼンを楽しんでいる姿は、つるみね保育園のいちばんの自慢です。

週に1回程度、1～2人の発表です。週で、1人につき年間で3～5回の発表機会



プレゼンタイムでの発表の様子



表現する力や聞く力が育っている

しかありません。しかし、そのわずかな実践の継続が、これまでいちばんの課題としてきた発表力や表現力を、飛躍的に向上させているのです。そして何よりも、友だちの話のしっかりと聞く力が育っていることが、質疑応答を楽しむ子どもたちの姿から実感できます。

デジタル保育

プレゼンタイムは、デジタル保育に位置付けている取り組みの一つです。

当園は、「ハイブリッド保育 ～9割のアナログ保育と1割のデジタル保育～」という研究テーマで、利便性の悪い地域でも保育の幅を広げ、子どもたちの好奇心を伸ばすための実践的な検証を、食育だけでなく様々な領域で続けています。

「デジタル」という言葉を目にしただけで、幼児期には不要なものだとか、冷たいものだというイメージをもたれる方もいると思います。しかし、視察に来園された方々は、デジタル保育が子どもたちのより

よい成長に不可欠な保育となっていることに、共感していただきます。

デジタル保育は、5つの特色に分類して実践を重ねています。「プレゼンタイム」は、特色3での実践となっています。

デジタル保育5つの特色

- 特色1 グローバルな感覚を磨く・コミュニケーションを楽しむ
- 特色2 正しい知識を深める
- 特色3 表現力・思考力・発表力を高める
- 特色4 社会性・道徳心を高める
- 特色5 先進性・創造性を楽しむ

とくに今年は、新型コロナウイルスによって学校や幼児施設が休みになるなどの状況が起こったことで、よりよいデジタル活用やオンライン学習の必要性に関心が高まりました。

詳細は、認定こども園つるみね保育園のホームページをご覧ください。ぜひ、一緒に保育での活用を検証してみませんか。



つるみね保育園ホームページ <http://tsurumine-hoikuen.com/>